



北区エバンジェリスト検証授業 ④ 生成AIの活用事例

言葉のひびきを味わい、自分らしい表現へ

小学校5年国語「秋の夕」/ 滝野川もみじ小学校 長岡功登先生の実践

今回で紹介する授業は、小学校5年生の国語「秋の夕(ゆうべ)」です。季節の移ろいを感じながら、言葉のひびきや表現の工夫を味わい、自分らしい文章をつくることをねらいとしています。

ICT活用の面では、「きたコン」と生成AIを組み合わせることで、児童一人一人の表現力をいっそう豊かに引き出す実践が行われました。

言葉から広がる“秋”の世界

授業の冒頭では、「秋」という言葉から思い浮かぶ情景や感情を自由に申し合いました。子どもたちは、紅葉、虫の声、運動会……と、口々に語ります。その様子はとても活発で、学級のあたたかい雰囲気の中で、だれもが安心して発言できているのが印象的でした。

「きたコン」上では、思考整理法のひとつである「マインドマップ」を使って、連想した言葉をつなげて視覚化していきます。画面いっぱい広がる「秋のことば」は、児童一人一人の感性を映すカラフルな作品になりました。ICTを使うことで、思考の広がりや“見える化”できたことが、次の表現活動への意欲につながりました。



生成AIとともにことばを磨く

次の活動では、自分のマインドマップの中から気に入った言葉を選び、「秋の夕」にちなんで短い文章をつくりました。ここで登場したのが生成AIです。先生が事前に用意したプロンプト(AIへの指示文)を使い、児童は自分の書いた文章をAIに読み込ませ、よりよい言葉の言い回しや文の流れを提案してもらいます。

AIの力を借りることで、語感豊かで生き生きとした表現が生まれていました。AIが示した案をそのまま使うのではなく、自分の思いに合う言葉を選び取る姿が印象的でした。まさに“AIを道具として使いこなす力”が育まれていると感じます。

作品づくりへの工夫と広がり

文章が完成した児童は、さらに自分の作品を彩る工夫を重ねていました。ネット上からフリー素材のイラストを探して貼り付ける児童もいれば、画像生成AIを使って、自分の文章に合った情景を作り出す児童もいました。



「きたコン」を「自分の思いを形にするツール」として活用することで、すべての児童が授業時間内に作品を完成させることができたことはすごいと思いました。完成した作品は、どれも見た目にも美しく、心に響く「秋の夕べ」の世界が広がっていました。

学びの振り返りとこれから

授業の最後には、ふり返りの時間がありました。児童からは、

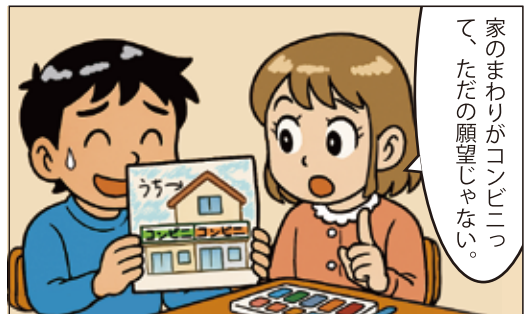
「AIを使っても、自分らしさを残した文章にしました。」

「AIが教えてくれた言葉をヒントに、もっといい表現が浮かびました。」

「北区GIGAスクール通信 みらい」は、北区立学校における北区ICT環境を活用した取組や家庭と連携する取組等について、保護者や地域の皆様に向けて、学び未来課が毎月発行いたします。

きたちゃんコンちゃん

by Toshi



など、前向きな感想がたくさん聞かれました。生成AIを“自分の思考を広げるパートナー”としてとらえる姿勢が、自然と身につけていることが分かります。

この授業は、ICTや生成AIを「便利な道具」として使うだけでなく、“言葉と心の学び”を深めるための手段として位置づけていた点に大きな意義があります。教師がしっかりと学習目的を見据え、生成AI活用のタイミングや支援方法を工夫したことで、児童の創造的な学びが実現していました。